



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.86 2011年5月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年



原子力発電所事故 “過剰反応”ですか？



放射性物質に汚染された野菜の出荷停止のニュースを見て、ある人は「過剰反応だよ！汚染された野菜が怖いなら中国の農薬漬け野菜の方がもっと怖い」と言って笑っていました。医師に「泊原発が怖いので事前にヨウ素剤を処方して欲しい」というと「それは過剰反応じゃない？」とひと言。果たして本当に過剰反応でしょうか。



もっとも心配な「内部被ばく」とは？



☆内部被ばく(体内被ばく)と外部被ばくを一緒にするな！レントゲンやCTと比べるな！

内部被ばくとは、食べ物や水などとともに放射性物質を飲んだり食べたり、吸い込んだりして体内に取り込んでしまうことで、放射性物質が体内にある限り持続的に被ばくすることです。日本では、この内部被ばくはあまり報道しませんが(意図的に報道していない?)欧州放射線リスク委員会では、「内部被ばくこそ被ばくの継続性、局所性から最も危険だ」といっています。それなのに、日本政府が設定している暫定基準値は内部被ばくの危険性を低く見積もり、さらには「ただちに健康に影響を与えることはない」とくり返しています。そもそも、放射線の量が一定量以下なら人体に危険はないというのは間違いなのです。アルファ線やベータ線は周囲を集中的に被ばくさせるので、外部被ばくで「低線量」といわれても内部被ばくでは桁違いの大きな被ばくになるのです。このように、内部被ばくと外部被ばくを一緒にして、しかも、医療用の胸部レントゲンやCTと比べて安全と主張するのは間違いです。

チェルノブイリ事故当時、汚染地域に居住していた子ども5000人以上が甲状腺がんになっているそうです。『Nature』オンライン版には、子どもの甲状腺がんの発症率が通常の10倍で、その原因が放射性ヨウ素で汚染された牛乳を飲んだためであるという調査結果が発表されたそうです。

☆半減期と毒性に注意！

放射性物質には、放射線の量が半分になる半減期というのがありますが、放射線の種類によって期間が違います。例えば、今回、牛乳やホウレンソウ、水道水から検出されたヨウ素131とセシウム137の場合なら、ヨウ素131の半減期はわずか8日だけど、セシウム137の半減期は30年。半減期がたった8日なら、ヨウ素131は心配なさそうに思えますが、ヨウ素131は、セシウム137の数千倍の放射線を出し続けます。ヨウ素131は化学的性質が体内のヨードと似ているため甲状腺に蓄積し、甲状腺障害やがんを引き起こします。セシウム137はナトリウムやカリウムと化学的性質が似ているため全身に広がり、筋肉に蓄積し様々ながんを発症したり、遺伝的影響をもたらします。

☆放射線はなぜ危険か

放射線によって人体に影響がでるのは、遺伝子(DNA)が傷つけられるからです。DNAには本来修復作用がありますが、修復できなかった細胞は、死滅したり、間違った修復により異常細胞が生き残ったりします。これらが、がんや奇形、不妊などの原因になるのです。

☆もっとも怖いプルトニウム だから漏れても発表できない？！

猛毒のプルトニウムの半減期はなんと2万4000年。体内にプルトニウムが入ったら、半永久的に肺の中で放射線を出し続け、血液によって全身へ運ばれ、肝臓、骨、リンパ節などに蓄積されて体外にはほとんど排出されません。プルトニウムを取り込んだ人は、亡くなってもその周辺を汚染し続けるのです。

記者会見で、記者からプルトニウム漏れを問われましたが、「計測できていません」の一点張りだったそうです。記者から質問されなければ、プルトニウムについては何も言わない理由がここにあります。(詳しくは裏面「☆大丈夫にみえる情報しか流していない」)

国、東京電力そして御用学者などは、内部被曝の危険性はほとんど無視しています！



本当のことでも、風評被害？



☆農家の方は放射能に対する知識を！

放射能に汚染したほうれん草の出荷停止を命じられたある農家が、ほうれん草がダメなら他の野菜にしようと、ほうれん草を畑にすき込み、別の野菜の種を蒔いたというニュースを見ました。農家の方に悪意はないのですが、放射能に汚染された野菜や土をすき込んでしまっただけでは、汚染が広がるばかりです。本来なら、放射能の汚染状況を調べ、表土の入れ替えをしなければならないのです。ロシアの科学者アレクセイ・ヤブロコフ博士は「セシウムやプルトニウムなどは年に1-3センチずつ土壌に入り込み、食物の根がそれを吸い上げ、大気に再び放出する。例えば、チェルノブイリの影響を受けたスウェーデンのヘラジカから昨年検出された放射性物質の量は20年前と同じレベルだった。」と話しています。

福島事故では、半減期が30年もあるセシウム137が広範囲に拡散したので、土壌や水質の汚染に関しては、最低でも30年以上は農作物を作ることができないということです。

北海道には泊原発があります。先月、原発から30^{km}圏内の余市町の有機農業家が他人事ではないと立ち上がり反原発集会を行ない、400人近くの近隣住民が集まりました。事故が起きていない原発立地地域はまだ間に合います。原発を止める声をあげましょう。

☆「風評」に惑わされず、正しい情報をキャッチし冷静に買い物を！

福島や茨城の野菜が売れないと「風評被害」だと言いますが、「風評」ではなく本当に汚染しているのですから賢い消費者が買わないのはあたりまえなのです。私たちが「我慢」をしてこれらの農家のものを購入するのは、内部被ばくの問題からいっても間違っています。一度出荷制限がでた土地は、次に出荷制限が解除されたとしてもその土は汚染されているはず。空気中を漂う放射性物質は、気ままな風次第。どこがどれだけ汚染されるかはわかりません。

グリーンピースが福島県北西部を調査したところ、避難県外でも野菜の12サンプルすべてから、土壌についても、8つのサンプル中7つが「基準値」を超えていたそうです。しかも、福島市内では、「基準値」を超えた野菜が販売されていて、国の出荷制限は不完全であることが判明しています。国が、基準値を厳しく設定し、測定回数を増やし、ウソのない数値を公表し続けなくては、「本当の」「風評被害」を止めることはできません。ごまかしや、偽装などはもつてのほかで、ますます信頼関係を壊してしまいます。

チェルノブイリ事故のときに、日本では市民による“放射能測定室”が誕生しましたが、今再びその機能が必要でしょう。(会報78参照)



これから...



☆将来に暗雲、覚悟を

原発事故による深刻な影響が広がっていくのはこれからです。チェルノブイリの事故では主として北日本に放射性微粒子が降り、10年後に乳がん死亡者が「10万人当たり10数人」増加しています。北海道では、小樽市が乳がん患者のトップだそうです。プルトニウムの半減期は2万4000年。もしもプルトニウムが土壌を汚染していたら、そのエリアは完全に使えなくなります。私たちが生きている間どころか未来永劫、人間はその土地で暮らすことはできなくなるのです。

「原発反対」は無理だと思っていませんでしたか？
原発はクリーンで安全だって信じていませんでしたか？
原発がないと暑い夏は困るよって思っていませんでしたか？

福島第1原発の6基の原子炉は今後すべて廃炉にして、コンクリートで石棺を作って封じ込めても、その後何十年もの廃炉管理が必要です。原子炉の寿命による廃炉の場合も、管理が不十分だと、廃炉から放射線がでてくる事態になりかねないそうです。

今後、福島県の人々はずっと、健康被害や農産物などの風評被害の心配にさらされ続けるでしょう。私たちは、こうなることを予想していたので、ずっと原発に反対してきました。その声が国も世論も変えることができず、残念でなりません。そして、選挙では、また原発推進派の人が知事になるという結果に。まだ、福島のこととは他人事なのでしょうか。私たちは、せめて反対し続けながら、飲み物や食べ物には気をつけて暮らしましょう。



東日本大震災 災害の中の子供たち(写真集)中国網日本語版(チャイナネット) 郡山市の避難所で、福島第二原子力発電所の周辺から避難した住民の放射線検査を行う防護服を着たスタッフ(3月13日)

報道の裏側 わたしたちは本当のことが知りたい！



水俣病をはじめとする公害、アスベスト問題も国が国民にウソをつき、そのために対処が遅れ、多くの被害者を生みました。今回も構造は全く同じ！

☆作業員の“緊急時被ばく線量”の繰上げは殺人行為だ！

作業員の緊急時被ばく線量の上限は年100ミリシーベルトでしたが、国はこの事故に限って250ミリシーベルトまで引き上げました。東電は「(100ミリシーベルトを超えた作業員については)250ミリシーベルトを超えない範囲で、本人の意思を確認しながら作業にあたってもらう」としていますが、これって許されることなのでしょうか。東電は、危険な作業は、下請けのまたその下請けの作業員を使っています。

緊急時被ばく線量の引き上げについて、琉球大学の矢ヶ崎克馬氏は、「内部被ばくを考慮しなければいけない」とし、「基本的には、労働者が浴びる放射線量は現状にしたままで、労働者数を確保する。他の原発を停止してでも、そこの熟練労働者の協力を得る。こういう際に安易に決死隊を作るという対応は最悪。安全確保を現場の労働者の犠牲の上に確保しなければならないとしたら、政治の貧困そのもの。炉心溶解やそれに対処する労働者の犠牲は「安全神話」の人災です」と言い切ります。

パリ大学のポール・ジョバン准教授は、仏ル・モンド紙のインタビューで作業員の被ばく量引き上げは補償請求から免れるための方便である可能性を指摘し、意義を唱えているそうです。

日本を含む世界15カ国で40万人の原子力施設作業員の調査をしたレポートがありますが、これによると、被ばく量が50ミリシーベルト以下でも発がん率は上昇しています。100ミリシーベルト以下は安全だとする説は、ここ数年でほぼ間違いとなっているようです。(北海道新聞「ニュース虫めがね」では、100ミリシーベルト未満でがんが引き起こされるという科学的根拠はないという見解を採用しています)

☆国、東京電力は「大丈夫に見える情報」しか流していない！

仏ル・モンド紙は、前福島県知事(当選5回)を務めた佐藤栄佐久氏のインタビューを掲載。元外交官で衆議院議員でもあった佐藤氏は任期中に、東京電力福島原発に闘いを挑んだことでも有名。インタビューでは、東電と原子炉の機能を監視することが目的の保安院が、検査報告にある破損事実を2年間も秘密にしていたこと。前知事が、2000年以降、東電の下請け会社社員から「原発の安全基準が守られていない」という内部告発を20通以上も受けとっていたこと。そして、「(告発した人の)氏名を伏せて保安院にその手紙の内容を伝えたのに、2006年に知事の任期を終えるまで返答はなかった」という事実を証言しています。

3号機のプルトニウム漏れについて、フリージャーナリストの追及で、東電は測定してないばかりか計測機さえ持っていないことが明らかになりました。プルトニウムは猛毒の放射能物質で、ごく微量でも吸入すれば肺に沈着し、がんを引き起こします。発がん性の高さは国際がん研究機関も指摘しています。ところが、日本では国と東電、マスコミが一体となって、「プルトニウムは重金属だから、風に乗って飛ぶことはない」と安全キャンペーンを張り、あの池上彰氏までがテレビで同じことを言っています。

日本が、海へ放射性物質を流したことで海外からは「海洋犯罪テロ国家」とまで言われています。日本は、海に放出した放射性物質は「低レベル」の放射線物質と言っていますが、海外ではそのレベルは「高レベル」だそうです。弁護士やフリーのジャーナリストが東電を追求し、海へ放出している放射能の具体的な数値を聞くと東電は「測る機械を持っていないから、測っていない」と答えたそうです。

☆「原子力発電に意義あり！」の出演者は降板させる

日本のマスコミは、まるで、政府の“機関紙”のようだと思いませんか。その答えをジャーナリストの上杉隆氏が週刊金曜日を書いてくれました。

上杉隆氏は、TBS ラジオ『小島慶子キラキラ』にレギュラー出演していて、生番組中に「東京電力などが情報を隠蔽しているんじゃないですか」と話したところ、プロデューサーから「今月いっぱいまで辞めてください」と降板を言い渡されたそうです。さらに、テレビでは電通連がスポンサーの『ニュースの深層』で、火曜キャスターをしている上杉氏が、広河隆一氏と鎌中ひとみ氏をゲストに呼び、金曜キャスターをしている葉千栄氏が、広瀬隆氏をゲストに呼んだところ電通連が「スポンサーをできない。検討を」と言ってきたそうです。上杉氏は「つまり、政府や記者クラブメディアの情報と違うことをいう人間はメディアから消せという流れです」と怒っています。テレビやラジオの裏側が見えましたね。

記者クラブ:日本には記者クラブ制度という独自の制度があり、政府系の記者会見などは記者クラブに所属する大手メディア以外は出席を許されていません。政府や企業を厳しくチェックすべきジャーナリズムが政府や企業によって用意された特権的な立場に甘んじることで、政府・企業などと大手メディアが一種談合状態となり、国民に正しく情報が伝わらないリスクがこの記者クラブ制度にはあります。大手メディア以外の記者・ジャーナリストも加盟できる「プレスクラブ」(日本では、社団法人である日本記者クラブや、日本外国特派員協会などが該当)とは全く性格を異にするほぼ日本独特のシステムで、フリーランスの記者などに対し排他的であるとして近年、多くの批判を浴びている。

☆映像報道のあい方に疑問 心を痛める人々

加熱した報道と映像。繰り返し流される AC ジャパンの道徳的 CM。被災地の方は勿論、被災していない人々まで、この報道で震災や原発事故を疑似体験し体調不良を起こしています。夜眠れなくなったり、悲しくて泣いてばかりいたり、急に心臓が苦しくなって病院に駆け込んでくる人もいます。大人だけではありません。「AC ジャパンの CM が流れると繰り返し見せられた津波の恐怖を思い出して凍りつく子どもがいる」「テレビをやめてラジオにした」などの声も聞こえてきます。

「強い国ニッポン」「がんばれニッポン」って、戦時下やオリンピックの応援じゃあるまいし。先日NHKのラジオで「私は福島の野菜を買っています」というお便りが紹介され、ゲストが「あなたは偉いですね」って。今、エライ人になってはいけません。国と東電をしっかりと責めて、責任をとらせることが二度と同じ過ちをくり返さないために私たちにできることの一つです。

☆忘れていませんか。アスベスト

地震で倒壊したビルの解体や、がれき処理では、すさまじい量の粉じんが舞い、そこにはアスベストがあります。アスベストは、髪の毛の5千分の1ほどの微細な繊維で吸い込むと、10年～40年後に中皮腫や肺がん、石綿肺などを引き起こします。阪神・淡路大震災でアスベストが問題になりましたが、国もマスコミもこれ以上の混乱を避けたいのかほとんど報道していません。環境省は2007年、『災害時における石綿飛散防止にかかわる取り扱いマニュアル』を作成し、解体や廃棄物処理をどう取り扱うべきか、具体策を盛り込んだそうですが・・・。阪神・淡路大震災の教訓を生かすことはできているのでしょうか。

☆原発から20キロ圏内の動物たち



餓死したと思われる牛 3000 頭、豚 30000 匹、鶏 60 万羽 4/19現在



使いますか？行きますか？

自動販売機＝全国の自販機は約550万台(06年)。年間総消費電力量は66億kW。一般家庭およそ200万世帯の年間消費電力に相当。原発1基分の電力に相当。
全国のパチンコ店＝1日当たりの消費電力は、415万kW時、一般家庭43万世帯分
ディズニーランド＝ディズニーシーを含めて、1日当たりの消費電力は、約 57 万kW時。東京ドームの約 10 倍に当たり、一般家庭約6万世帯分
※ 東電管内の飲料水販売機84万台では1日あたり400万kW、一般家庭41万世帯分！